



堀岡敏喜 議員

小・中学校で、学校公開日や公開週間を設けてはどうか

問

小・中学校で学校公開日、また学校公開週間を設けてはどうか。

学校公開日とは、授業参観とは別に登校時から給食、下校時に至るまで、子どもたちの学校生活を一日公開することである。

メリットとしては長時間にわたると、普段見られない休み時間や清掃など、自然な学校生活を見ることができ、家庭での教育に生かすことができる。

また仕事などで都合がつきにくい保護者も参加しやすいくなり、子どもがいない世帯も、防災拠点である学校に行くことで災害時の確認にもなり、実際、その日に防災セミナーを行う地域もある。

実施の問題点は、主に防

犯対策である。(他市の)実

施校は、入り口を1カ所に限定し(保護者が)ワッペン等を付けたり、公開日は原則カメラ撮影の禁止、PTAや運営ボランティア等が警備につく、警察に巡回を依頼するなど対応している。

現在、学校公開日を実施する自治体は急速に増え、東京都はほぼ全域、名古屋市の一部、愛西市、津島市も実施している。

昨今の急激な社会構造の変化により、地域の結束力が低下し利己主義の風潮も大きくなり、子どもの規範意識等の低下など、新しい課題が噴出してきている。

こうした状況の中で、子どもを生きる力を育てるためには、社会変化に対応した新しい学校づくりが大切

ではないか。

そのためには情報公開が大切であり、学校公開が望ましいと考えるが、市としての見解を聞く。

防犯対策を十分とる必要がある

答

教育課長

学校への(保護者の)訪問回数は授業参観、個別懇談会、運動会等で回数的には足りていると考えている。

授業参観時間の延長や公開週間の設定は、保護者が自由になる反面、防犯対策も市として十分とらなければならないと考えている。

しかし、地域に開かれた学校づくりは当然であるので、今後、地域、学校長、教頭会議およびPTAに相談し、今後のあり方を検討したい。



▶ 授業参観(桜小学校)